

〔曲名〕 Chitarre e Mandolini

きたるらとまんどリーの

〔曲種〕

〔作曲者〕 Amedeo Amadei

アメデオ アマディ

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

作者アマディに就いては第2号解説を参照されたい。

マンドリンオーケストラ曲「海の組曲」以来作者の名前は斯楽界では知らぬ人はないが、

この作者はオペラを初め、管弦楽曲、吹奏楽曲、ピアノ曲等に沢山の佳曲がある。

本曲「きたるらとまんどリーの」は原曲はピアノ曲で作品285番、ボローニアのコメリーニから出版を見たもの、

特性的なセレナータと副題が記され、作者の父と母に贈られている。

父ロベルトはやはり作曲家で作者の師でもあるが、思うに親愛の情をマンドリンとギターに托したものであろう。

初めにギターとマンドリンの開放弦が奏かれて調弦の様子を示し、ガボット調に入る。

作者はこのガボット調が頗（すこぶ）る得意で2号にも既に紹介したが他にもセレナーデ風ガボットや故郷の印象等佳曲が多い。

ト長調からハ長調に入ったところの歌謡調はアマディ独得の甘い旋律で二重音の低音旋律を上手に運びたい。

最後の四小節の運びが難しければユニゾンにしてもよい。

本曲の他に「ピノッキオー家」「田舎の思出」とゆうピアノ組曲があり機会があれば紹介したい。

1970年6月10日発行

イタリアマンドリン百曲選第6集より